別紙様式第5-1号

（日本工業規格Ａ列４番）

編 修 趣 意 書

（教育基本法との対照表）

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-111	中学校	外国語	英語	第１学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2　東書	英語　701	NEW HORIZON English Course 1		

1. 編修の基本方針

―― 豊かな学びが未来を拓く ――

1年生のテーマ　英語で世界とつながろう

もっと英語を使おう

人と人をつなぐために，言葉は大事な働きをします。英語が使えることで，コミュニケーションの範囲は，ぐっと世界に広がります。
小学校で触れた英語をもとに知識や技能を高め，英語による「見方・考え方」を働かせながら思考・判断し，表現できる力こそが，グローバル社会を生きる英語の使い手として求められる姿です。
本教科書は，教育基本法の目的および理念を踏まえ，主体的・対話的に学びに向かい，積極的に他者や世界とつながる心とコミュニケーション能力を育成することを目指します。

特色 1

学びの意欲の喚起

自立した英語学習者を育てる

特色 2

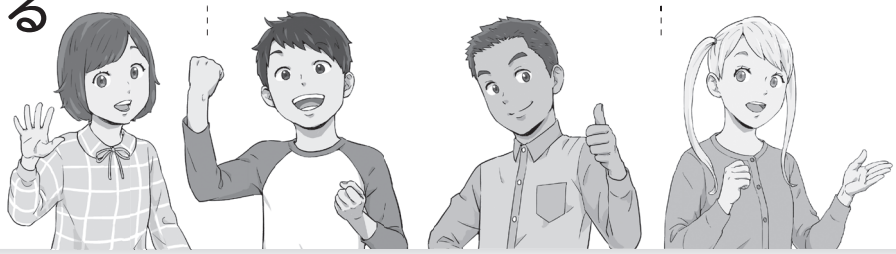
学びの質の向上

深い学びへといざなう

特色 3

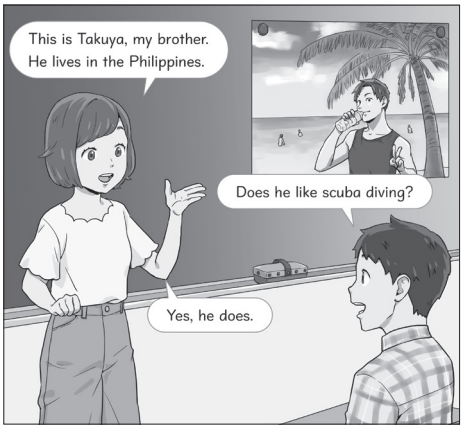
学びの連続性の重視

小中高の学びをつなげる



特色 1 【学びの意欲の喚起】自立した英語学習者を育てる

- **学びたい気持ちと自ら学ぶ力**を高めることで，**生涯にわたって学びを継続**できるようにしています。
- 英語を学ぶ意義や学ぶ楽しさにつながるように，身近なところから世界につながる**幅広い題材**を取り上げ，**英語学習への意欲**を高めるようにしています。
- 英語の学習のポイントを押さえるための「学び方コーナー」を設け，**効果的な学習方法**が身につくように配慮しています。

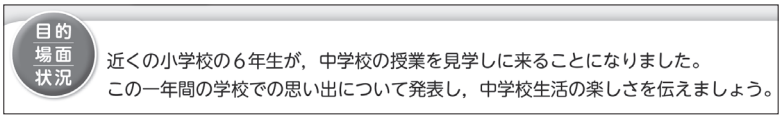


▲語学留学先として人気のフィリピンにいる兄についてのスピーチ(p.58 Unit 6)

▲語彙を広げる辞書指導(p.9 学び方コーナー1)

特色 2 【学びの質の向上】深い学びへといざなう

- **他者とのコミュニケーションを図る力の育成**を重視し，目的や場面，状況を踏まえる大切さを前面に出しています。その場その場で**目的や場面，状況に合わせて英語で表現**できることは中学生にとっての**深い学び**であり，それを繰り返すことでコミュニケーションの力を高めます。
- **他教科の内容を英語で学ぶ**ページを設け，**学びの融合**を図ることで，学習内容を深めることにも配慮しています。



▲目的や場面，状況を想像して活動に取り組みます。
(pp.120〜121 Stage Activity 3 「My Favorite Event This Year」)

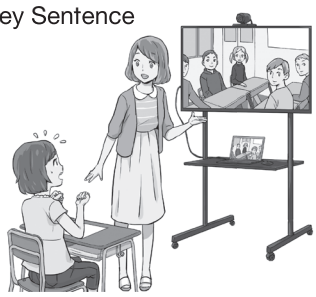
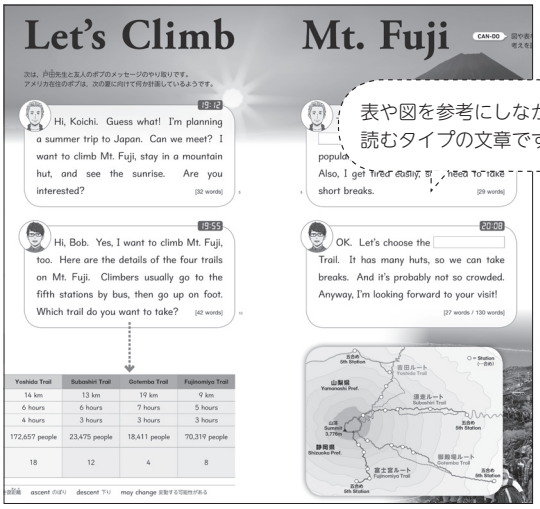
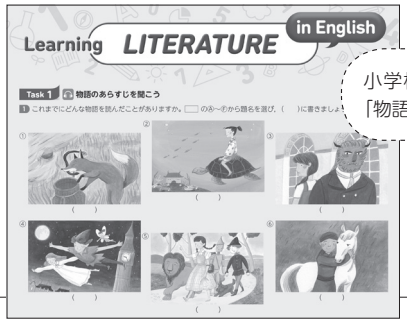
特色 3 【学びの連続性の重視】小中高の学びをつなげる

- 小中高の連携を図るため，**1年生では小学校の「音」中心の学習を丁寧に受けとめ**，十分な接続期間を取って円滑でかつ強固な連携を図っています。
- 1年間で何を学ぶか，どのように学ぶかを各学年の最初に示すとともに，巻末にチェックリストを設け，**4技能5領域の力が確実につく**ようにしています。
- このチェックリストは，学習指導要領にもとづいた**東書版CAN-DOリスト**をよりどころにしています。

▼特に1学期を中心に，小学校で扱った内容を豊富に取り入れています。
(Unit 1〜5のEnjoy Communicationの例)

小学校で行った道案内の活動▶
(小学校英語教科書 5年より)

2. 対照表

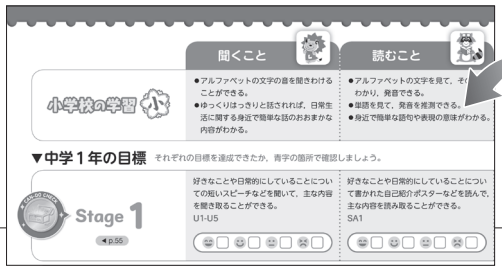
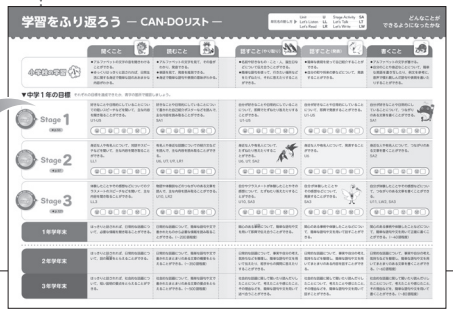
図書の構成・内容	留意点	具体例
全体	❶基礎・基本となる文や文構造，文法を系統的に学ぶと同時に，それらを単なる知識としてではなく，**目的や場面，状況に合わせて活用できるコミュニケーションの力**として育成することを目指しています。（第1号） ❷各Unitで取り上げる題材を通して，異なる文化の発想や考え方を知り，**広い視野**でものごとをとらえる力や**相手の立場**に立って理解しようとする態度を育成します。（第1号） ❸Unitでは，生徒の心情に訴えるような題材を取り上げ，**友情や国際協力などの道徳心**を培うように配慮しています。（第1号） ❹学年末の巻末の語彙集や資料では，生徒の興味関心に広く訴えるものを取り上げ，**豊かな自己表現**を促します。（第1号） ❺Let's Listen，Let's Talk，Let's Writeでは，言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動を行い，**実生活に生かす**ことができます。（第2号） ❻Unitの中に働く人の姿を織り込み，**働くことに関する意識の醸成**を目指しています。（第2号） ❼1年間を通して，キャラクターたちが活躍するストーリーが繰り広げられます。生徒は，**自らの学校生活と重ねて学習**が進められます。（第2号） ❽対話的な学習のために，**ペアやグループ**で取り組むコミュニケーション活動を豊富に用意し，**相手意識を持ってコミュニケーション**を行ったり，相手の立場に立って考えたり，協力し合ったりする心を育みます。（第3号） ❾イラストや写真を含め，**男女が協力**して家庭生活を営む様子を取り上げています。かつ，社会で働く人の姿についても男女を取り上げています。（第3号） ❿自然を大切にしたり，**環境の保全**を意識したりするような題材を取り上げています。（第4号） ⓫世界に日本の良さを発信しようとする生徒を育てるために，**伝統や文化，自然**に関する題材を取り上げています。（第5号） ⓬**国語との関連**を図り，日本語との関連から，英語について学べるような資料を掲載し，**言葉への豊かな感性と情操**を育成します。国語で学ぶ物語の内容構成理解の方法を英語にあてはめ，実際にLet's Readを読むようにしています。（第5号） ⓭グローバル社会で生きることを意識し，海外の生活や文化を理解し，尊重する心を育み，**国際社会の平和と発展に寄与**する態度を養います。（第5号）	❶p.12 Unit 1「New School, New Friends」のEnjoy CommunicationとKey Sentence ❷pp.37～43 Unit 4「Friends in New Zealand」 ❸pp.77～83 Unit 8「Surprise Party」 pp.87～93 Unit 9「Think Globally, Act Locally」  ❹pp.152～167 Word Room ❺p.75 Let's Listen 1「留学生のプロフィール」 p.116 Let's Talk 4「レストラン」 p.108 Let's Write 2「旅先からの便り」 ❻p.89 Unit 9「Think Globally, Act Locally」 ❼pp.10～11 Unit 1「New School, New Friends」 ❽p.12 Unit 1「New School, New Friends」 p.63 Unit 6「Speech about My Brother」 ❾p.160 Word Room 17「一日の生活」 p.165 Word Room 25「職業」 ❿p.60 Unit 6「Speech about My Brother」 p.93 Unit 9「Think Globally, Act Locally」 ⓫pp.67～73 Unit 7「Foreign Artists in Japan」 pp.98～99 Let's Read 1「Let's Climb Mt. Fuji」  表や図を参考にしながら読むタイプの文章です。 pp.128～129 Optional Reading 1「Laughter is a Strong Bridge」 ⓬pp.122～123 Learning *LITERATURE* in English」 pp.124～126 Let's Read 2「City Lights」 ⓭pp.87～93 Unit 9「Think Globally, Act Locally」  小学校国語で学習した，「物語の山場」を考えます。

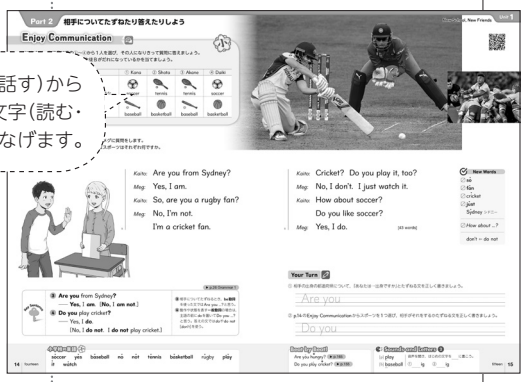
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

観点	留意点	具体例
1 特別支援教育への配慮	❶小学校で使用している**視認性や書きやすさに配慮された書体**を，1年のほぼ全体を通して使用しています。また，1学期は回答欄に4線を使用しており，その幅は，文章全体の9割を占める**小文字が書きやすい**ように，**2線と3線の間をやや広く**しています。 ❷本文やNew Words，Key Sentenceなど，**紙面上の要素のデザインや配置を統一**しているので，学習の流れを見通すことができ，安心して学習に取り組むことができます。 ❸**二次元コード**をページごとに配し，**音声学習に取り組みやすく**しています。音声は，p.3に示すURLからもアクセスできます。	❶p.8 Unit 0 「Welcome to Junior High School」 a tennis player ❷p.59 Unit 6 「A Speech about My Brother」 ❸p.13 Unit 1 「New School, New Friends」
2 ユニバーサルデザインへの取り組み	**Unit⇒技能領域別のLet's シリーズ⇒Stage Activity**の3つのメイン単元で構成されています。UnitとLet's シリーズを積み重ねることで，学期末のStage Activityへと到達できます。このように**構成を規則的**にし，**学習のユニバーサルデザイン化**を図っています。	pp.2～3 目次「学習の見通しを立てよう」 p.64 Let's Talk 1「お願い」 p.75 Let's Listen 1 「留学生のプロフィール」
3 造本上の工夫	❶年間の指導時数がこれまでと同じなので，指導時間を配当している**ページ数は増やさない**ようにしました。また，紙面をA4判にすることで，単語数の増加に応じた本文・語句欄でありながら過度な負担にならないよう配慮しています。 ❷ページ数を抑えたうえ，**軽量化を図った紙**を使用することにより，重くなることを最小限に抑制しています。 ❸**特殊な糊を使って製本**し，ページが大きく開くため，外側に折り返して手に持っても，ページがはがれず，堅牢なつくりです。 ❹印刷は鮮明で，豊富な写真やイラストを効果的に配置しています。	

2 今日的な課題への取り組み

観点	留意点	具体例
1 防災・安全	3年間を通して防災や安全の視点を重視しています。	p.22 Unit 2「Our New Teacher」
2 環境・資源エネルギー	題材の中で，自然と触れ合ったり，その大切さを感じたりするような場面を取り上げています。	p.112 Unit 11 「This Year's Memories」
3 多様性・人権への配慮	題材や人物の出身国は，英語圏や非英語圏，日本とできるだけ**多様な世界の国々から設定**しています。それぞれの国の良さや違いを感じたり，言語や文化に対する理解を深めたりできるようにしています。また**男女のバランス**にも配慮しています。	題材で取り上げている国々：ニュージーランド (Unit 4)，フィリピン (Unit 6)，ケニア (Unit 9)，イギリス (Unit 10) 人物の出身国：オーストラリア，フィリピン，アメリカ，イギリス，カメルーン
4 伝統・文化	**日本の伝統・文化の良さを海外に発信**したり，逆に，日本に住んで，伝統・文化に取り組む人を紹介し，**自国への理解**を深めたりします。	pp.67～73 Unit 7 「Foreign Artists in Japan」
5 道徳教育との関連	❶多様な国々を取り上げることで，世界へ目を向け，視野を広げ，**それぞれの国が大事にしていることの理解**につなげています。 ❷ペアやグループの学習，発表のときなど，**相手意識**を持って伝え合い，伝わる喜びを感じられるように配慮しています。	❶pp.87～93 Unit 9 「Think Globally, Act Locally」 ❷p.63 Unit 6 「A Speech about My Brother」
6 小中高の連携	❶小中高の連携を図るため，学習指導要領をもとにした**東書版CAN-DOリスト**を作成し，それに則って学習目標を設定しています。 小学校と中学1年の各学期の目標を5領域別に示しています。▶	❶巻末CAN-DOリスト  

観点	留意点	具体例
6 小中高の連携	❷1年生では，小学校との円滑な接続のために十分な期間を取り，小学校の**音を中心とする学習から**，中学校における**4技能5領域の力をバランスよく育成する学習へ**と移行できる構成にしています。 ごく簡単な自己紹介活動を通して，生徒のレディネスチェックができます。  音(聞く・話す)から入って，文字(読む・書く)につなげます。	❷左下：pp.4〜5 Unit 0 「Welcome to Junior High School」 右下：pp.14〜15 Unit 1 「New School, New Friends」
7 言語力の育成	❶言語力を育成するために，「学び方コーナー」で**日本語との違い**に触れるなど，**国語を意識した学習**ができるようにしています。 ❷**発表するときの留意点**を共通にしたり，**文学作品の読み方**に取り組ませたりするなど，国語との連携を図っています。	❶p.28 学び方コーナー2 「単語のつづりと発音①」 ❷pp.120〜121 Stage Activity 3 「My Favorite Event This Year」

3 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

観点	留意点	具体例
1 授業支援と教員の負担軽減への取り組み	❶**1ページあたり1時間を基本**とし，時間配当や年間指導計画を把握しやすい構成にしています。 ❷各Unitのパート構成を同じにしているため，**学習の流れを見通し**やすくなっています。まず話したり，聞いたりすることから入るため，小学校での学習を自然と思い出せます。 ❸活動で発話・対話したり，書いたりする際の**例文を丁寧に示し**，指導の際にも子供自身が学習する際にも活用できます。 ❹Stage Activityでは，イラストを使って**生徒の活動の姿が見える**ようにし，紙面をたどると活動が進むようにしています。	❶pp.2〜3 目次「学習の見通しを立てよう」 ❷pp.19〜25 Unit 2 「Our New Teacher」 ❸pp.54〜55 Stage Activity 1 「“All about Me” Poster」 ❹pp.96〜97 Stage Activity 2 「My Hero」
2 カリキュラム・マネジメントへの取り組み	❶他教科と特に関連を図ったページにはマークを付し，該当の内容を多面的に，より深く学べるように配慮しています。 ❷小学校で重視された**Small Talk(スモールトーク)**を中学校でも継続して行うことができるようにしています。簡単なメモを見て発表したり，**即興で話したりする力**を伸ばすことに有効です。 ❸**少人数学習**を実施する学校でも使いやすいように，ペアやグループでの学習を入れたり，進度によって使えるOptional Readingを設けたりしています。	❶pp.22〜23 Unit 2 「Our New Teacher」 ▸社会 (地理) ❷p.56 Small Talk 1 ❸p.107 Unit 10「Winter Vacation」 pp.130〜131 Optional Reading 2 「Let’s Go to London!」
3 教育のICT化への取り組み	❶紙面に付した二次元コードを機器で読み取ることで，手軽に**本文と語句欄の音声を聞ける**ため，学校でも家庭でも音声を活用した学習ができます。音声にはURLからもアクセスが可能です。 ❷Unitの最初に配置しているPreviewには，二次元コードでアニメーションと音声を付しているので，そのUnitで扱っている文法項目を使う「目的・場面・状況」を予想することができ，**意味のある文法学習の導入**となります。 ❸制度化された**学習者用デジタル教科書**を発行予定です。デジタル教科書の使用によって，必要な部分を大きくして見たり，音声へのアクセスが簡単にできたりするため，学習の効率化が図れます。 コードを読み込むと，本文や語句の音声を聞くことができます。	❶p.3「使われている主な記号について」 p.13 Unit 1 「New School, New Friends」

別紙様式第5-2号

編修趣意書

（日本工業規格Ａ列４番）

（学習指導要領との対照表，配当授業時数表）

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-111	中学校	外国語	英語	第１学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2　東書	英語　701	NEW HORIZON English Course 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色 1 【学びの意欲の喚起】自立した英語学習者を育てる

●積極的に学びに向かう力

①学ぶ意義と学ぶ意欲の向上

英語を学ぶ意義を知ることは，学ぶ意欲につながり，生涯にわたって学び続ける姿勢にもつながります。冒頭の□絵に現在及び将来の生活で遭遇するような場面を提示し，本文では英語で触れるにふさわしい題材や英語を使いたくなる活動を充実するなど，積極的に**学びに向かう力**を喚起しています。

②目標と評価の一体化

明確な目標を持ち，自分で評価ができるようになると，生徒の力は伸びます。本教科書では，３年間の学びの到達点に向けて，学年，学期，単元ごとにゴールを明示し，一歩ずつ着実に学習を進めます。

③５領域のバランスのよい育成

Unitではバランスよく５領域の力を身につけ，**Let's**シリーズで場面や働きに特化した技能を扱います。**基礎的・基本的な知識・技能から思考・判断・表現に向かって**技能の統合を図り，各ステージ末の**Stage Activity**では総合的な発信の力に結びつけます。

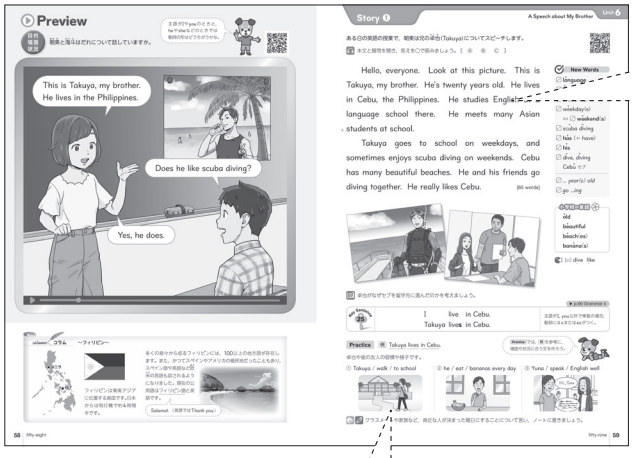
単元	パート	聞く	読む	やり取り	発表	書く	
Unit	扉(Enjoy Listening)	◎					単元導入のためのリスニング
	Enjoy Communication (Unit 1～5のみ)	○		◎			小学校の表現を使った活動
	Story 1～3	○	◎	○		○	本文と，場面のある代入問題
	Mini Activity (Unit 6～11のみ)	◎		◎		○	ListenとSpeak & Write
	Unit Activity (Unit 6～11のみ)	○		◎	◎	◎	単元末の発信活動
Let's	Listen	◎					
	Read		◎				
	Talk	○	○	◎			
	Write		○			◎	
Stage Activity		○	○	◎	◎	◎	

知識・技能から ↓ 思考・判断・表現へ

各領域のキャラクター達による，思考・判断・表現する際のヒントやアドバイスを各所に示しています。

特色 2 【学びの質の向上】深い学びへといざなう

●目的・場面・状況を踏まえたコミュニケーション



◀pp.58〜59 Unit 6

①意味のある活動がつなぐ深い学び

中学生にとっての**深い学び**とは，**目的・場面・状況に合わせた英語**が使えるようになることです。

Unit 6以降は，中学校で初出の文法事項を扱い，その文法が使われる目的や場面，状況を想像させるPreviewから入ります。**Previewには二次元コードでアニメーションつきの音声を用意**し，場面の理解を促します。

②場面のあるパターンプラクティス

各PartのPracticeも本文と関連する場面を取り上げ，単なる入れ替えではなく，**意味のある練習**ができます。

③確かな文法力

使用場面を提示することで，**コミュニケーションを支える文法**がしっかり身につきます。

p.66 Grammar for Communication 4 ▶

特色 3 【学びの連続性の重視】小中高の学びをつなげる

●小学校との円滑な接続

①音から文字へ

小学校で聞く・話すなど**「音」を中心として覚えた英語を「文字」につなげる**過程を丁寧に踏んでいます。Unit 0でポイントを押さえ，Unit 1〜5では，目的や場面，状況を踏まえた4技能5領域を用いる活動を行います。

②「気づき」から「文法」へ

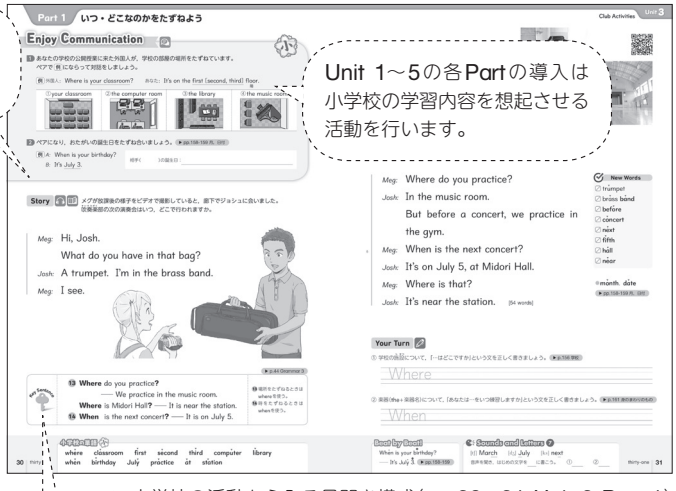
小学校で得た気づきを，中学校では文法として指導します。**Unit 1〜5は，小学校の表現を網羅**し，文法として整理し直すステージです。1つのパートで複数の文法事項を対比的・並列的に取り上げています。

③語彙のスパイラルな扱い

小学校の語彙を主に中学1年生で繰り返し使用し，定着を図るようにしています。また，小学校の単語が登場する場合は，小学校の単語 小 というアイコンで明示しています。**小学校の単語630語は巻末資料編に一覧**にしています。

本文も音で「聞く」から始めて「読む」につなぎます。

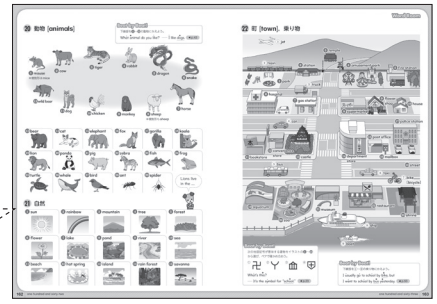
Unit 1〜5の各Partの導入は小学校の学習内容を想起させる活動を行います。



▲ 小学校の活動から入る見開き構成(pp.30〜31 Unit 3 Part 1)

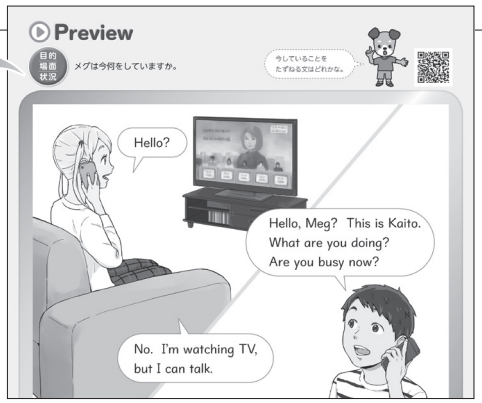
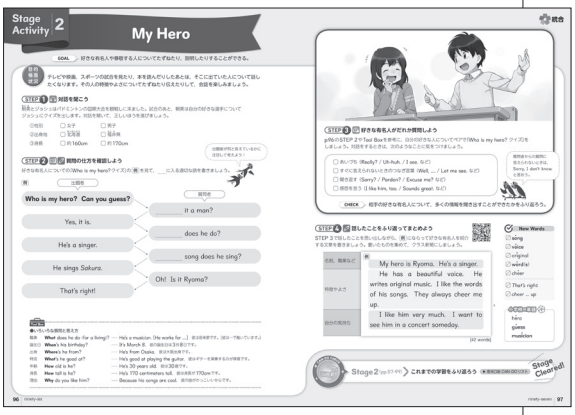
Key Sentenceで，小学校で聞いたり話したりした英語のルール(文法)を整理します。

様々なコミュニケーション活動に役立つジャンル別のピクチャーディクショナリー。

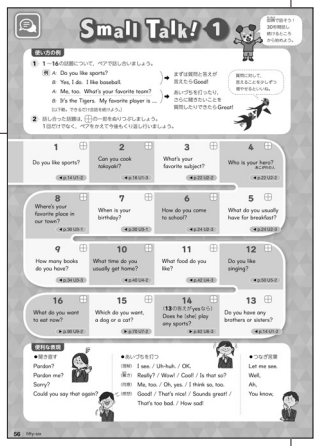


▲全16ページの豊富な語彙とイラストのWord Room（pp.162〜163）

観点別特色の一覧

観点	具体例
1 教育基本法の遵守	●教科書の内容全体を通して，グローバル時代に生きる全ての日本人に求められるコミュニケーション能力を育みます。**英語を学ぶことで身につく見方・考え方**が国や文化の違いを越えて人と人を結ぶ豊かなコミュニケーションをもたらす可能性に気づき，グローバルな視点での発言や行動に結びつけていくことを目指しています。（全体） ●国際社会の一員として，オリンピック・パラリンピックにも見られるような**自国の伝統・文化を尊重**するとともに，他国を尊重し，**国際社会の平和と発展に寄与する態度**を養うようにしています。（pp.67〜73 Unit 7, pp.87〜93 Unit 9など） ●教育基本法の第2条を遵守しています。（本資料p.3参照）
2 学習指導要領の遵守	▶「目的や場面，状況」についての意識を促すアイコン  ●中学校学習指導要領（外国語科）に示された目標に則り，コミュニケーション能力の育成を目指し，その基礎となる**言語材料の知識と技能**を基盤とし，生徒が自分で**思考し，判断**したことを適切に表現できることを**深い学び**ととらえ，順を追った活動を組み込んでいます。（全体） ●文法はコミュニケーションを支えるものとして，どのような**目的や場面，状況**で使われるかを生徒が理解することを重視しています。（Unit 6〜11 Previewなど） ●英語で意思や情報を伝え合う**対話的な活動や協働して問題解決に当たる活動**を充実させ，対話的な学習を促しています。さらに，話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり，自分の考えを深めてそれを表現につなげたりするようなコミュニケーション活動を充実させています。（Unit 6〜11 Unit Activityなど）
3 内容・系統	●3年間の学びを見通したうえで，中学1年生での到達点（ゴール）を示しているので，豊富な言語活動を通して明確な**到達点に向かって学習を進める**ことができます。（pp.2〜3 学習の見通しを立てよう，巻末口絵 学習をふり返ろう―CAN-DOリスト―） ●各Unitの冒頭に必ず到達点（ゴール）を示しています。また，最後にも同じ文を載せ，振り返りや自己評価をすることができます。 ●生徒が学びたくなる題材，やってみたくなる活動を豊富に取り上げ，**積極的に英語を使う授業の場づくり**に資するようにしています。 ●Mini Activity（単元途中）⇒Unit Activity（単元末）⇒Stage Activity（学期末・年3回）という順で，**全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げています**。各Activityの内容は以下の通りで，いずれもパフォーマンス評価を行うことができます。 (1) **Mini Activity**：①Listenと②Speak & Writeという2種類の活動があり，Unitで学習した文法の定着の確認に重きを置いています。（p.61 Unit 6） (2) **Unit Activity**：単元末に，学習した文法の知識を活用しながら複数の技能領域を組み合わせて使うペアあるいはグループ活動を行います。（p.63 Unit 6） (3) **Stage Activity**：学期末に，これまでに積み上げた知識や技能を総合的に扱って発信に結びつける活動を行います。（pp.96〜97 Stage Activity 2） 身近な人やものについて紹介したり， 
4 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）	◆組織・配列 ●全てのUnitは，既習事項を**スパイラルに学習**できる構成になっています。Unit 1〜5は**小学校との関連を密接に図って「気づきから文法へ」**と理解を深め，Unit 6〜11では中学で初出の文法を学習します。どのUnitも，音から導入して文字に向かう順序で4技能5領域すべてをバランスよく扱います。（本資料p.7参照） ●「学び方コーナー」では英語学習のポイントやコツを系統的に取り上げ，**生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成**することを目指します。1年では，語彙を増やすための「辞書の使い方」と，知らない単語でも読み方を予測しやすくなるための「単語のつづりと発音」をそれぞれ2段階で扱います。（p.9, p.28, p.65, p.85） ◆分量 ●小英が教科化されたことを重視し，また自然なリズムのある英文に触れられるように，教科書で扱う分量を段階的に増やしています。同時に，高等学校への接続を考え，入試で扱われる分量を想定して英文の量や活動の種類についても充実させています。（全体） ●語彙は，小中学校の教科書やCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で学習したとみなされる語を**630語**と設定し，それに加えて中学校の新出語**約1,700語**を加えた**約2,300語**を扱っています。（pp.132〜143 Word Listまたは本資料p.9④の図参照）

観点	具体例
4 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）	●上記約2,300語のうち小学校既習語から**468語**，中学校新出語から**532語**の合計**1,000語**を**「特に覚えたい語」と設定**し，Word Listで太字で示しています。この1,000語は，全ての生徒の**発信語彙**として繰り返し提示して定着できるようにしています。（下図★印参照） ●中学校新出の1,700語は，教科書本文だけでなく本文以外の部分で扱う語も含め，生徒の負担増を軽減しています。（資料編Optional Readingなど） 小・中学校で扱う語　**約2,300語**　※★は「特に覚えたい語」（合計 1,000語） 小学校の既習語：**630語**（★468語） 中学校の新出語：**約1,700語**（★532語）　本文　約1,200語　本文以外　約　500語
5 基礎的・基本的な知識，コミュニケーションの4技能5領域の定着への配慮	●CAN-DOリストに基づき，3学年を通して4技能5領域の技能が確実に育成できるようにしています。（本資料p.6参照） ●Unit / Let's シリーズ(Listen, Read, Talk, Write) / Stage Activityの3つの主要単元で，**知識・技能の習得と活用**を繰り返しながら**思考力・判断力・表現力等の育成**を目指します。いずれの単元でも，言語を使用する**目的・場面・状況を意識して活動に取り組める**ような仕組みにしています。（本資料p.6参照）
6 資質・能力への対応	●変化の激しいグローバルな社会で生きていくための資質・能力に配慮し，英語を通じて**異文化理解**を深めたり，**多様性**を認めたりするとともに，他者への共感や思いやりを持って**共生社会の実現**を目指す態度を育成します。（全体） ●各学年にテーマを設け，題材で扱う範囲を身近な話題から社会的・世界的な話題へと段階的に重心を移しています。1年のテーマは，「英語で世界とつながろう―もっと英語を使おう―」とし，英語を使うことで**世界中の人との理解や共感を得ることが英語を学ぶ意義**となり，生徒にその楽しさを知って英語を使う気持ちを高めてほしいという願いを込めています。（全体） ●技能と文法を車の両輪のように考え，学習段階に合わせた活動を扱っています。活動を通して，使える英語が身につくようにしています。（本一覧表p.8の3参照）
7 学習方法・授業展開への配慮（アクティブ・ラーニングなど）	●各紙面において学習要素を定位置に置き，特別支援への配慮をしています。Unit 1～5では見開き冒頭にEnjoy Communication，見開きの右側に語句欄（New Words）を配置し，脚注の「小学校の単語」と分けて示しています。紙面右上の二次元コードからは，本文と語句欄の音声にアクセスできます。Unit 6～11では本文の右側に語句欄を入れ，同様に音声にアクセスできるようにしています。（p.14 Unit 1，p.59 Unit 6など） ●**英語で授業**を行うことに配慮し，ペアやグループ活動を充実させたり，**帯活動で継続的に**行って**即興的なやり取りの力**をつけるための**Small Talk**のページを設けたりしています。また，教師用指導書には発問の英訳を掲載します。（p.56 Small Talk 1）
8 学習の習慣化への取り組み（規律・態度など）	●資料編のWord Roomでは，**語彙をジャンル別に豊富に示し**，本体の活動で自分が言いたいことを表現するときに使えるようにしています。（本資料p.7参照） ●**授業以外の場でも英語の音声を聞ける**よう，二次元コードを付しています（p.13 Unit 1など）。二次元コードを利用できない場合は，p.3に示すURLからアクセスすることができます。教師用指導書付属のメディアにも音声を収録します。
9 言語に関する配慮	●言語力育成への視点から，**国語との関連**を図っています。物語の読み方を扱ったページのすぐ後にLet's Readを配置し，物語の構成が読み取りやすくなるようにしています。（pp.122～123 Learning *LITERATURE* in English, pp.124～126 Let's Read 2） ●発表する際のポイントを示したり，メモをもとに発表する例を示したり，相手の発言に対して質問し，会話を続けてコミュニケーションを深める例を示したりしています。（Stage Activity 2，3など）
10 他教科との関連	●CLIL（内容言語統合型学習）への対応として**他教科での学習を生かす**もの，現代的な諸課題に対応するものなどを扱い，生徒の理解を深めるようにしています。（全体） ●「資料の読み取り」の力を育成するため，**図表や非連続型テキスト**を含む教材を扱っています。（本資料p.3または教科書pp.98～99参照）
11 造本上の工夫（学習への効果）	●小英の教科化による語彙や英文量増加の一方で，年間授業時間数が増えていないことに配慮し，指導時間を配当するページは増やさないようにするため，A4判を採用しています。学校で使われる用紙サイズにも配慮しています。また，判型を大きくすることで写真等のレイアウトやデザインをダイナミックにし，かつ見やすくしました。 ●軽量化された用紙を使い，かつ，薄くても裏移りしにくいものを使用しています。



2. 対照表

1年	図書の構成・内容・主な言語材料		学習指導要領の内容		該当箇所ページ	配当時数
			2 内容	3 指導計画の作成と内容の取扱い*		
Unit 0	Welcome to Junior High School	アルファベット，単語	(1)，(3)①ア		4〜8	2
Unit 1	New School, New Friends	be動詞 / 一般動詞 / canの文	(1)，(2)，(3)①アイウエオカ，②	(2)イエ (3)イ(ア)(イ)	10〜17	6
Unit 2	Our New Teacher	This [That, He, She] is .... / What [Who, How] ...?			19〜25	6
Unit 3	Club Activities	Where [When] ...? / I want to / 複数形 / How many ...?			29〜35	6
Unit 4	Friends in New Zealand	命令文(Be [Come, Don't] ....) / What time ...? / What + 名詞 ...?			37〜43	6
Unit 5	A Japanese Summer Festival	前置詞 / like ...ing / be good at ...ing / went, ate, saw, had, was			47〜53	6
Unit 6	A Speech about My Brother	三人称単数現在形	(1)，(2)，(3)①イウエオカ，②	(2)エカ (3)イ (ア)(イ)(ウ)	57〜63	6
Unit 7	Foreign Artists in Japan	人称代名詞目的格 / Which [Whose] ...? / mine [yours]			67〜73	6
Unit 8	A Surprise Party	現在進行形 / 感嘆文			77〜83	6
Unit 9	Think Globally, Act Locally	want [try, needなど] to ... / What do you want to ...? / look + 形容詞			87〜93	6
Unit 10	Winter Vacation	一般動詞の過去形			101〜107	6
Unit 11	This Year's Memories	be動詞の過去形 / There is [are] .... / 過去進行形			109〜115	6
Let's Listen	1. 留学生のプロフィール　2. 欠席した友達への電話連絡 3. ラジオDJのトーク		(1)ア， (3)①イエ	(2)イ	75, 95, 117	各1
Let's Read	1. Let's Climb Mt. Fuji 2. City Lights		(1)ウ，(2)， (3)①ウ	(3)イ (ア)(イ)(ウ)	98〜99, 124〜126	2 3
Let's Talk	1. お願い，2. 体調， 3. 道案内，4. レストラン		(1)ウ， (3)①エ，②		64, 74, 94, 116	各1
Let's Write	1. お祝い，2. 旅先からの便り		(1)ウ，(3)①ウカ		84, 108	各1
Stage Activity	1. "All about Me" Poster 2. My Hero 3. My Favorite Event This Year		(1)ウ，(2)， (3)①イウエオカ	(2)カ	54〜55 96〜97 120〜121	各2
学び方コーナー	1. 辞書の使い方①，3. 辞書の使い方②		(1)ウ	(2)オ	9, 65	各1
	2. 単語のつづりと発音①，4. 単語のつづりと発音②		(1)ア	(2)イ	28, 85	各1
Grammar for Communication	1. be動詞と一般動詞 2. 名詞 3. 疑問詞 4. 三人称単数現在形 5. 代名詞 6. 現在進行形 7. 過去形と過去進行形		(1)エ	(2)エ	26〜27 36 44〜45 66 76 86 118〜119	2 1 2 1 1 1 2
Learning *LITERATURE* in English			(3)①イウ	(1)オ	122	1
					合計	103

*学習指導要領の内容「3 指導計画の作成と内容の取扱い」について，特記のない項目は図書の構成全体において扱う。